

一度は振り返るべき忘れがたき戦争を描く 成しえなかつた一篇の映画の形見

黒澤明／小國英雄／菊島隆三 著

シナリオ準備稿

虎 虎 虎

真珠湾攻撃 あれから70年……
どうしてあの戦争を起こしてしまったのか
どうして私たちは戦争に突入していったのか
失われたシナリオを求めて――

死蔵された脚本をいまここに —— 真価を問う電子出版

同時出版 秋元健治 著『真珠湾攻撃・全記録』（現代書館刊）
浜野保樹 著『解説「虎 虎 虎」—— 根本的には悲劇であることが土台だ』

この本をお届けする私たちの気持ち

1941年12月8日。

70年前のこの日、真珠湾攻撃によって日本はアメリカとの戦争状態に突入していきました。大本営陸海軍部発表……という臨時ニュースとともに、国民を鼓舞する雄叫びが流れていったのです。私の母は生前、この日、この臨時ニュースをゾーッとする底知れぬ不安と恐ろしさもって聞いたと話していました。庶民の直感か、その後に訪れる苦難の茫漠たる深さを瞬時に感じ取っていたのかもしれません。

長い年月を経ても、忘却にやり過ごせないものがあります。それが歴史でありましょう。

あれから70年——どうしてあの戦争を起こしてしまったのか。どうして私たちは戦争に突入していったのか。

一度は振り返るべき忘れがたき戦争を描く、成しえなかった一篇の映画の形見を私たちは手にしています。映画監督黒澤明と脚本の同志、小國英雄、菊島隆三が私たちに残したもの——忘れられたシナリオ『虎虎虎』準備稿です。

苦心して手にした『虎虎虎』準備稿をそのままに、そして出版というかたちに至るここまでの詳細解説、さらには残された数少ない証言をも集めてみなさまへお届けしたいとおもいます。

夢みて、叶えられなかった20年。これは電子出版に組した私たちボイジャーの正直な気持ちに他ならないものです。なにもかもを失って、今はただこれだけを伝え残すのみの心境に至ったといえます。

立派なものをつくる人たちは、そこへ到達する果てしない努力の積み重ねをおこなっています。それは立派な作品を見る以上にドラマチックであり、人を奮い立たせるものであります。残念なことに私たちはできあがった作品でしかそれを類推することができません。

見えないものを可視化する。これは次の世代の出版が本気で取り組む課題に違いないでしょう。私たちボイジャーは、ここに自分たちの目を据え付けて、今日までの活動を行なってきました。

求める一切を捨て、ただ訴えたいです。真価を問う電子出版の在処を。

今回、ボイジャーの新読書システム（BinB）によって、真っ先に次の作品をお届けいたします。

▶黒澤明 小國英雄 菊島隆三 著 『虎虎虎』（準備稿）

▶浜野保樹 著 『解説 「虎虎虎」——根本的には悲劇であることが土台だ』

2011年12月8日

株式会社ボイジャー
代表取締役社長 萩野正昭